

競技規則の運用方法の変更について

- ・ ルート図の作成方法および公開
- ・ 抗議の取り扱い

2022/7/15

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会

スポーツクライミング部技術委員会

ルート図作成時の注意事項

2022年シーズンから、**競技開始後に**ホールド番号を変更、追加することは不可
(IFSC競技規則7.19/7.21 JMSCA競技規則第52条/第54条の改定)

(ルート図)

第52条 ルート図は、チーフ・ルートセッターが主任審判員と協議した上で、競技会の各ラウンドの開始前に用意しなければならない。**ルート図には、当該ルートの各ホールドの評価値を記入するものとし、その評価値は当該ラウンド中、固定するものとする。**

(到達高度)

第54条 選手の到達高度は、次の各号に従って決定しなければならない。

=省略=

~~4 選手がルート図に記載の無いホールドをコントロール(保持)またはユーズ(使用)した場合、主任審判員およびチーフ・ルートセッターが当該ホールドの評価値を決定しなければならない。~~

○新コンバインドを念頭に置いた改定

(新コンバインドはホールド番号とポイントが連動するポイント制のため、ホールド番号を変更することができない)

ルート図作成時の注意事項

2022年シーズンから、**競技開始後に**ホールド番号を変更、追加することは不可
(IFSC競技規則7.19/7.21 JMSCA競技規則第52条/第54条の改定)

(ルート図)

第52条 ルート図は、チーフ・ルートセッターが主任審判員と協議した上で、競技会の各ラウンドの開始前に用意しなければならない。**ルート図には、当該ルートの各ホールドの評価値を記入するものとし、その評価値は当該ラウンド中、固定するものとする。**

(到達高度)

第54条 選手の到達高度は、次の各号に従って決定しなければならない。

=省略=

~~4 選手がルート図に記載の無いホールドをコントロール(保持)またはユーズ(使用)した場合、主任審判員およびチーフ・ルートセッターが当該ホールドの評価値を決定しなければならない。~~

★選手がコントロール(保持)またはユーズ(使用)可能性が高いものについては、ルート図作成時にあらかじめすべて番号を振っておく必要がある。

→決してすべてのホールドに番号を振る必要はない。

選手のパフォーマンスに差異をもたらすハンドホールドのみに付番すること。

★デュオの解除やホールド番号の入れ替えもできないため、チーフ・ルートセッターと審判長のコミュニケーションが非常に重要になる。

※新時代の競技会オフィシャルに求められるもの

ルートセッター：シークエンスが複数考えられるものは避ける、ホールド番号が不変のものという認識

審判：一定のムーブ予測能力、クライミング能力が問われる

ルート図の公表

予選は競技開始前、準決勝および決勝はオブザベーション終了後に公式掲示板でルート図（評価値を記入したもの）を公開する。

（IFSC競技規則7.19/JMSCA競技規則第52条の改定）

（ルート図）

第52条 ルート図は、チーフ・ルートセッターが主任審判員と協議した上で、競技会の各ラウンドの開始前に用意しなければならない。ルート図には、当該ルートの各ホールドの評価値を記入するものとし、その評価値は当該ラウンド中、固定するものとする。

2 ルート図は、ラウンド開始までに、もしくは集団オブザベーションが実施される場合はその終了後からラウンド開始前までに、公式掲示板に掲示しなければならない。

★予選（＝フラッシュ方式）では、デモビデオの公開とともに公表することが望ましい。

★デモビデオでのクライミングとルート図のホールド番号が必ず一致すること。

抗議の取り扱いについて

成績公表の手順と抗議の受付

従来の運用

➤ 抗議への対応は二段階で！

- ① 競技中や暫定成績に対する抗議：主任審判員
- ② 公式成績や①の主任審判員による判断に対する抗議：抗議審判団（TD + 審判長）

審判長は、①の時点で判断を行わないこと！

＝同一の案件を異なるメンバーで検討する余地を残しておく

①で審判長が主任審判員に依頼すべき事項

- ・ 審判がスコアシートやルート図に記入した成績が正しく、かつ成績表示用スクリーンやウェブサイトでの表示と同一であるか確認すること
- ・ 必要に応じて、判定用公式ビデオ記録の確認と成績の修正を行うこと

抗議の取り扱いについて

成績公表の手順と抗議の受付

新しい運用

➤ 抗議は抗議審判団がすべて取り扱う

→その競技会における最終的な判断をより早く下すため
※国際大会での運用もこちらに変更されている

抗議審判団

原則、テクニカル・デリゲイト + 審判長

原裁定に審判長が関係した場合は、テクニカル・デリゲイト + 主任審判員

※TD設定なしの場合、

審判長 + 原裁定に関係していない審判

◇必ず二名で構成 = 複数の視点から検討

◇抗議審判団の判断は最終的かつそれ以上の抗議は認められない！